








MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

MCN REPORT

Vol.22 2014.9

 あいさつ	1ページ
 トピックス	2ページ
 大学の動き	3ページ
 地域貢献	7ページ
 ご案内	10ページ
 卒業生訪問	11ページ
 教職員紹介	13ページ

トピックス

**認知症ケア看護師養成研修
看護職キャリアデザイン講座**

2ページ

シリーズ

オープンキャンパス

3ページ

夢緑祭

5ページ

卒業生訪問

11～12ページ



三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



大学マスコット
キャラクター
「みかんちゃん」

あいさつ

理事長〔学長〕 あいさつ

村本 淳子

第二期中期目標・中期計画策定にがんばっています！



平成21年4月に地方独立行政法人化した本学は、平成21年に策定した第一期中期目標・中期計画の最終年度を今年むかえています。そこで今年度は第一期を総括するとともに、平成27年度から6年間、どのような

方向に大学を進めていくのかを示す第二期中期目標・中期計画を策定する大きな節目の年にあたります。中期目標は三重県が本学の意見も加味して策定し、その中期目標に沿って本学は6年先を見据えながら中期計画を立案します。

新聞報道などでご存知かと思いますが、看護系大学は現在非常に人気の高い大学となっており、年間10大学以上が増え続けています。少子化が進み、大学が増

え続けている中であって大学はいかに質の高い教育を提供していくのかがもっとも問われています。

本学は、平成9年4月の開学当初より“質の高い看護実践家の育成”を教育理念に掲げるとともに、公立大学として“地域に密着し、地域に貢献する大学”として発展してきました。そして平成21年度に独立法人化してから、その方向性をさらに明確に打ち出し実践してきました。その結果、単科の小規模大学ではありますが全国に注目され、輝く大学として急成長してきています。本学のこの成長は、平成27年度から開始する第二期中期目標・中期計画によりさらに加速していくことになります。

本学が、今後ますます充実、発展していけるよう教職員一同、努力していきます。後援会、同窓会、本学を支援してくださっている多くの皆様方、引き続きご支援のほど、よろしく願いいたします。

後援会会長あいさつ

川出 明伸



本年度、後援会会長に就任致しました川出明伸と申します。二年間役員を務めさせて頂きましたが、今年度からは会長を三年間務めてこられた市川会長の後任と言うことで、より責任あ

る立場となり、プレッシャーも感じております。

他の役員の方々の協力を頂きながら、大学と連携を図り、学生の修学や大学生活を支援できるように一生懸命務めていきたいと思っておりますので、本年も引き続き、後援会活動に対し会員皆様方のご理解・ご協力をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

平成26年度 後援会役員

役職	氏名		役職	氏名	
会 長	川出 明伸		理 事	佐野 稔	新任役員
副 会 長	米田 恭三		監 事	玉樹 麗子	
副 会 長	近藤 恭弘		監 事	南部 正臣	新任役員
理 事	北川 智子				
理 事	宮崎 由美子		顧 問	村本 淳子	学長
理 事	高橋 英樹		顧 問	伊藤 隆	事務局長
理 事	中井 繁美	新任役員	事 務 局 長	三井 清輝	事務局副局長
理 事	相澤 由美	新任役員	事 務 局	川島 弥	
理 事	川村 元秀	新任役員	事 務 局	梶 智恵	

トピックス

平成26年度 認知症ケア看護師養成研修

地域交流センターでは「認知症ケア看護師養成研修」を開催しています。

これは三重県内で勤務する看護職が認知症の病態、看護、生活支援、医療福祉制度等について学び、適切な援助・指導などの看護ケアが行えるようになることをめざす7日間のコースです。今回は、県内の病院や介護施設などから定員を上回る72名の看護師の皆さんにご参加いただきました。人口の高齢化が進む中、認知症ケアは今、社会の大きな課題になっており、看護師の皆さんの関心の高さがうかがわれます。去る7月5日(土)の初回には、三重大学大学院助教の木田博隆先生、認知症介護研究・研修東京センター客員上級教員の五島シズ先生にご講義いただき、参加者の皆さんは熱心にお話聞き入り、メモを取っておられました。

今年度は、同じコースを2回開講します。次回(10/11～12/27のうちの7日間)の受講申し込み受け付けは9月1日から9月30日です。詳しくは本学ホームページに掲載しております。



平成26年度 看護職キャリアデザイン講座

7月29日(火)・30日(水)・8月18日(月)に、高校生を対象とした「看護職キャリアデザイン講座ステップ2：1日みかん大体験」が開催されました。この講座は、本学が平成22年度に「休退学・早期離職防止のキャリア形成モデル」として文部科学省に採択された大学教育改革プログラムに端を発するもので、看護系大学をめざす高校生のキャリア教育の一環として3年間継続してきました。本講座の目的は、高校生の進路選択にあたって、看護職についての理解を深めてもらい、同時に看護系大学への進学目的や意志を明確にしておくことにあります。特に入学後の休退学者の多くが、看護職や看護系大学への理解不足が原因であることから、入学後の休退学を防止することにもつながります。今年度は、3日間で県内外の高校生約100名が参加し、高校生のキャリアデザインへの関心の高さがうかがえました。

講座の内容は、講義・演習・発表会から構成されており、講義では本学教員による看護職の経験談や本学学生による大学生活や学習についての体験談を聞いてもらいました。また演習では、高校生数名と教員、サポーターである4年生の学生が小グループを構成し、講義内容を参考にグループディスカッションを行いました。ディスカッションでは、自分が看護系大学へ進学することや将来看護職として働く姿、さらに看護職になるために現在高校生として必要な行動について話し合ってもらいました。最後に各自が話し合った内容をもとに「未来予想図」を作成し、その内容を「1分間スピーチ」として発表してもらいました。参加者のアンケート結果から、自分を見つめ直すいい機会になったことや進路選択において看護職の理解が高まったこと、さらに看護系大学進学目的が具体化してきたなど、9割以上の参加者が本講座に高い満足度を示しました。

本学では、平成26年度より「1日みかん大体験」をはじめ、県内高校との高大接続事業を積極的に推進させていくことにより、入学後の休退学の防止や県内看護職者の充足に向け、貢献していきたいと考えています。





大学の動き

オープンキャンパス



平成26年7月26日(土)、オープンキャンパスが開催されました。当日は猛暑にも関わらず、536名の参加者で賑わいました。「世界一受けたい看護の授業(模擬授業)」では“大地震が起こった時、看護にできること”と題し、災害時の保健師の活動を紹介しました。そして、会場のみなさんと共に、コンタクトを使用している高校生、乳児の親、糖尿病をもつ高齢者にそれぞれに必要な持ち出し物品を考えました。

赤ちゃんの沐浴体験や、心肺蘇生法の体験、手洗い体験などのブースでは、教員や学生から説明を受け、参加者一人ひとりが体験を楽しんでいました。基礎看護学のブースでは、血圧や脈拍を4年生に測ってもらいながら、学生生活や実習などについて相談する姿も見られました。参加者からは「いろいろな体験ができて良かった」、「学生生活などについて、先輩方の生の声が聞けて良かった」、「この大学に来たいという気持ちが強くなった」などの声が聞かれました。

参加者の皆さんの笑顔に、教職員学生一同、癒されながら無事一日を終えることができました。オープンキャンパスに参加された方々と今後共に学べることを心待ちにしています。



アカデミックオープンキャンパス

平成26年3月23日(日)に開催し、参加者は県内外合わせ96名でした。昨年より会場を津駅から徒歩圏内の場所に設け、アクセスも大変便利になり沢山の方にお越しいただきました。また、例年通りベテラン予備校講師の解説をはじめ、空き時間には進路相談等も活用いただき、参加者の皆さんから「わかりやすくよかった」と好評を得ることができました。



入試情報

11月から平成27年度入試が始まります。平成27年度入試は、新しい選抜方法の導入や今までの選抜方法についても昨年度からの変更点がいくつかあります。新しい選抜方法の導入では、特別入試にセンター試験を課す推薦入試として地域推薦入試Cを設けました。現在、センター試験に向けて準備している受験生の皆さんの中で、前期日程や後期日程の受験前にいち早く本学への入学を決めたい皆さんに対応したものです。一方、昨年度からの変更では、特別入試の基礎学力検査と一般入試のセンター試験の理科について、高等学校の新学習指導要領に沿った対応として、それぞれ受験科目の選択範囲を広げています。この変更によって、これまで以上に多くの受験生の皆さんに本学を受験してもらえるようになったのではないかと思います。また、それぞれの選抜方法で募集人員の見直しも行っています。最後に、特別入試の名称を統一し、昨年度までの地域推薦入試を地域推薦入試B、一般推薦入試を地域推薦入試Aとしました。特別入試が三重県内で看護職者として活躍して欲しい高校生の皆さんを対象に、主に県内高校から推薦を受ける入試であることを分かりやすく示すための変更です。平成27年度入試は多くの変更点がありますので、詳しくは大学ホームページ、平成27年度入学者選抜要項などでご確認ください。

平成25年度看護学部卒業式・大学院修了式について

平成26年3月15日(土)に、平成25年度の本学看護学部卒業式ならびに大学院看護学研究科修了式が行われ、村本淳子学長から看護学部94名、大学院3名に卒業証書および学位記が手渡されました。



さらに、看護学部最優秀生として神谷菜月さんが表彰され、卒業生・修了生の代表として謝辞を述べました。本学の卒業生・修了生であることを誇りに思い、悔いのない人生を築かれることを願っています。



平成26年度入学式について

平成26年4月2日(水)に、平成26年度の看護学部および大学院看護学研究科の入学式を挙行了しました。看護学部では難関を



くぐり抜けた99名を新入生として迎えました。また、大学院看護学研究科では8名が入学しました。新入生を代表して小原侑子さんが、入学の決意を宣誓しました。教職員一同、全ての新入生が有意義な学生生活を送られるようにサポートしていきます。



国家試験対策について

看護師保健師助産師の国家試験は、毎年2月に行われます。本学では100%合格を目指して授業、補講、模擬試験などを通して学習支援を行っています。本年度の模擬試験については、3年次3月に低学年模試、看護師模試は7月から12月までに4回、保健師模試は1月までに2回、助産師模試は1月までに3回予定しています。外部業者の補講は、9月と11月に予定しています。後期10月から12月に本学教員による国家試験中心の授業を30回行う予定です。4年生の保護者の皆様、最終段階に入る学生が心身を整えて国家試験に臨めるよう応援をお願いします。

	看護師	保健師	助産師
受験者数	94名	93名	6名
合格率(平成26年)	98.90%	94.60%	100%
全国合格率(新卒者)	89.6%(95.1%)	86.5%(88.8%)	96.9%(97.6%)

就職状況 平成25年度卒業生94名の就職状況です

就職状況

看護師 82名
保健師 2名
助産師 6名
進学 4名
その他

主な県内就職先

国立大学法人 三重大学医学部附属病院
地方独立行政法人 三重県立総合医療センター
社会福祉法人 恩賜財団 済生会松阪総合病院
日本赤十字社 伊勢赤十字病院
独立行政法人 国立病院機構 三重病院
三重県立 こころの医療センター
松阪市民病院
三重県厚生農業協同組合連合会 松阪中央総合病院

主な県外就職先

名古屋大学医学部附属病院
藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院

県内 49名 県外 43名

**県内就職率
53.26%**





大学の動き

第17回 夢緑祭 (平成26年6月28日(土))



週末の天気予報は当日雨。前日から雨が降り、大学祭開催前である9時ごろまで雨はふっていました。しかし！雨は止み、時には太陽の光が射し込むほどになりました。MCNみんなの溢れるほどのパワーで悪天候をふっとばして無事開催しました。品揃え豊富な模擬店だけでなく、スライム作りや健康診断、心肺蘇生法の体験など、子供から大人まで楽しめる大学祭となりました！ダンス、アカペラ、バンド、ジャグリングという、多くのパフォーマーによって大学祭は大いに盛り上がり

ました！去年同様、ユニセフの方に来ていただき、命の大切さがわかる写真の掲示や、卒業生との座談会、災害に必要な物品の展示など、楽しませるためではなく、看護という領域を意識し、健康なども考えさせてくれるイベントでもありました。多くの幅広い年齢層の人たちに来ていただき、ここでしかできないような体験をし、有意義な経験をしていただけたと思います。また大学祭を計画、作り上げた1年生、2年生の大学祭実行委員会の人たちは、さらに仲を深め、協力して何か一つのことをつくるすばらしさを感じ、また、伝統を継承することでこれまで委員会をしていた先輩たちとの間にも強い絆がうまれました！多くの人とのつながり、交流ができた最高の日になりました！

(新谷ほのか)



ゆびた祭り (平成26年7月9日(水))



突如として襲撃してきたノグリー（台風8号）。彼によって波乱の幕開けとなった。そんな今年度のゆびた祭りを紹介します。

入って最初の関門の受け付けは、金券導入で混雑を解消しました。受け付けを過ぎて、最初に楽しめる学生ホールのイベント。手前から、プラバン、ヨーヨー、1円玉落とし、紙飛行機を行いました。次に、レクチャールームの射撃コーナー。割り箸で作ったゴム鉄砲の威力はなかなかのもの。景品のチョコのお菓子がチョコっと溶けていたのはご愛嬌。

お腹もすいてきたところで食堂に行ってみましょう。食堂の入り口にはかき氷があります。さらに進んでいくとたこ焼き、焼きそば、唐揚げ、ソフトクリームなど魅惑の品ぞろえ。今年からは、食堂の奥にも金券ショップを設置し、入り口まで戻る手間を省きました。

お客さんが例年より少ないゆびた祭りとなりましたが、その分一人一人しっかりおもてなしができたと思います。来年はたくさんのご来場お待ちしております。

(大神 雄)

大学評価(認証評価)を受審しました。

学校教育法第109条第2項の規定により、三重県立看護大学は平成25年度に文部科学大臣の認証を受けた評価機関である公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、同協会の大学基準に適合しているとの評価を受けました。認定期間は、平成26年4月1日(火)から平成33年3月31日(水)までの7年間となります。本学では今回の評価結果をふまえて、今後より一層、質の高い教育・研究の実践に努めてまいります。



ようこそ先輩・就職説明会

大学の恒例行事となりました「ようこそ先輩・就職説明会」は、今年度も平成26年5月2日(金)の午後に開催しました。「ようこそ先輩」は4年生が最終学年をどのように過ごせば有意義な学生生活になるかについて、先輩方の様々な経験談やアドバイスをいただくことを目的としています。卒後2年目と3年目の看護師(男女各1名)、3年目の助産師、2年目の保健師各1名と大学院生1名の計5名の先輩を招聘しました。各先輩には近況報告や貴重な体験談を発表していただき、参加者からは「予想以上に役に立った」など、高い評価を得ることができました。

「就職説明会」は三重県内の医療機関等への就職支援として情報提供を行うことを目的としています。今年度からは新たに県内の看護系大学2校にも学生の参加を呼びかけました。施設ごとの29ブースで相談が行われ、参加者からは「様々な病院の説明が聞けて良かった」等、大変好評でした。2行事とも「参加してよかった」が、96.4%、100%と高い支持率でした。



マヒドン大学研修生

平成26年6月9日(月)から2週間、マヒドン大学医学部看護学科より3名の看護学生が来学し、日本の保健医療について学びました。午前中は本学の教員による日本の保健医療・看護についての講義を受け、午後は県内の保健医療・福祉施設を見学しました。本学の学生による歓迎パーティやマヒドン大学生のタイの保健医療についてのプレゼンテーション、放課後のバドミントンや会食などを通じて、学生間の交流も深まりました。本学の学生も毎年マヒドン大学を訪れています。とても熱心に学び、質問し、また流暢な英語を話すタイの学生に本学の学生もよい刺激を受けることができました。



F M三重夕方ワイド「EVENING COASTER」に出演しています

F M三重夕方ワイド「EVENING COASTER」(月～木17:00～18:55)の番組の中のTOPIC(17:27頃からの5分コーナー)に本学の教員が出演し、心と体の健康に役立つ話題をお届けしています。



生理学 健康科学
大西 範和 教授

平成26年5月1日(木)

第1回目は大西先生による「ダイエット」のお話でした。間違ったダイエット方法によるリバウンドについてのお話や、リバウンドのリスクについて放送しました。



薬理学・生化学
林 辰弥 教授

平成26年7月3日(木)

第3回目は林先生による「薬」のお話でした。薬を使用する基本的な治療法に関してや、風邪薬の服用で体調が回復するメカニズムなどについてお話されました。また薬を服用する際の注意点などが放送されました。

平成26年6月5日(木)

今回は「熱中症」のお話でした。熱中症の原因や病型、症状についてのお話や、救急処置の方法、スポーツ活動中の熱中症予防方法について放送しました。



生体情報学
齋藤 真 教授

平成26年8月7日(木)

第4回目は齋藤先生による「疲労」のお話でした。意外と知られていない疲労のメカニズムや現代の疲労と昔の疲労の違い、そのほか誰もが経験する「疲労」との上手な付き合い方をお話されました。



地域貢献

地域交流センター長就任挨拶



今年4月より、地域交流センター長に就任しました大西範和です。大学では、形態機能学（生理学）、健康科学や体育実技などの授業や4年生の卒業研究を担当しています。研究は体温調節が専門で、額に汗して発汗機能を調べたりしています。本学は、地域貢献活動にたいへん積極的で、県民の皆様の健康づくりに関連する活動や看護職の皆様を対象とした研究支援など様々な事業を行っています。これらは、法人化以来、前任の山口地域交流センター長を筆頭に、教職員が一丸となって取り組み作り上げてきたものです。この度、私がバトンを受け取ることとなり、この先も地域交流センター活動を通して、一層県民の皆様や看護職者の皆様に本学の教育・研究の成果を共有・活用して頂きたいと感じております。私自身は何分力不足でございますので、冷や汗をかきながら、本学教職員をはじめ、学生、卒業生、保護者、県内の看護職者の皆様にお助けを頂きながら職務を全うしたいと考えます。何卒よろしくお願い申し上げます。

健康増進外来

「健康増進外来」では、筋力・持久力を高め、病気にかかりにくい体を維持する方法を身につけることを目的として、トレーニング教室を開催します。自己流で行って、足腰が痛くなった経験はありませんか？間違った方法は体に負担をかけます。自分の体重・ペットボトルなどでできる筋トレや、スローペースのジョギング、足腰に優しいノルディックウォーキングなどを体験し、正しい方法を身につけましょう。現在参加者を募集しています！

「Let's！トレーニング」：募集人数20名(先着)。10月から開催。詳しくは大学HP参照。

三重県立看護大学地域交流センター事業

「やってみよう！看護のおしごと」



平成26年7月5日（土）、6日（日）にみえこどもの城で開催された「キッズ☆おしごと広場」イベントに、看護体験ブースとして参加しました。5日は雨にもかかわらず、多くの子どもたちが来場し、本学のブースでは約180人が「包帯まきまき体験」、「ドキドキ聴診体験」、「ナース服試着体験」を体験しました。包帯を巻いたり、初めて自分の心臓の音を聞いたり、あこがれのナース服を試着して写真を撮ったりと、たくさんの子どもたちが看護に触れる機会になりました。なかには「看護師さんになりたい」という子どももいて、ボランティアに参加してくれた本学学生5名に笑顔で優しく迎えられて、その夢がさらに大きく膨らんだようでした。

平成26年7月5日（土）、6日（日）にみえこどもの城で開催された「キッズ☆おしごと広場」イベントに、看護体験ブースとして参加しました。5日は雨にもかかわらず、多くの子どもたちが来場し、本学のブースでは約180人が「包帯まきまき体験」、「ドキドキ聴診体験」、「ナース服試着体験」を体験しました。包帯を巻いたり、初めて自分の心臓の音を聞いたり、あこがれのナース服を試着して写真を撮ったりと、たくさんの子どもたちが看護に触れる機会になりました。なかには「看護師さんになりたい」という子どももいて、ボランティアに参加してくれた本学学生5名に笑顔で優しく迎えられて、その夢がさらに大きく膨らんだようでした。



不妊症・不育症の知識普及等の取り組みを行っています。

不妊に悩むカップルは、現在は6～7組に1組の割合といわれ、増加の傾向を示しています。三重県では、不妊に悩む方たちへの支援を積極的に行っており、特定不妊治療を受けたご夫婦に対して費用の一部助成を行っていますが、今年度からさらに不育症治療等助成を実施した市町に対して費用の一部助成も新たに実施します。

三重県立看護大学では、これら三重県の不妊に関する事業の一部委託を受け、「不妊・不育症等の知識普及・啓発事業」、「不妊専門相談に関する人材育成および相談事業等の支援」を母性看護学領域の教員が中心となり、本学の地域交流センター事業としてこれまでも積極的に実施してきました。

今年度は、不妊症の知識や治療について「カップルで考える不妊治療と治療中の生活」というテーマで開催します。内容は、不妊治療における辛さ・思い、治療において起こる葛藤や悩みなどについて不妊症の方たちと日頃関わりをお持ちの医師や臨床心理士の方による講演会（平成26年12月～平成27年1月ごろ）です。また、不妊で悩んでいらっしゃるカップルにお集まりいただき、日ごろの疑問や生活の工夫などについてお互いに意見交換を行う交流会開催（平成27年2月ごろ）も計画しています。

さらに今年度は新たに、「不育症に関する講演会」を平成27年1月ごろに、名古屋市立大学病院産科婦人科教授杉浦真弓先生をお迎えして実施する予定です。また県内の医療職者および一般の方々を対象に、不妊に悩む女性やそのパートナーに対するケアのエキスパートである「不妊症看護認定看護師」の活動について知っていただくために、講演会や不妊症看護認定看護師との交流の場を設ける予定です。

これら講演会や交流会等の開催の詳細については、後日、本学のホームページに掲載いたしますのでご覧いただき、ぜひご参加ください。

平成26年度地域交流センターのパンフレット 「講師派遣のご紹介」と「事業のご紹介」です。



★「講師派遣のご紹介」は、出前授業、公開講座講師派遣のご案内です。本学の教員が講師となって、県内各地域、団体、施設等へ赴いてお話しさせていただきます。

講義のテーマや内容は本学ホームページでもご覧いただけます。

多くの皆さんにご活用いただければ、幸いです。

ご希望の方は、地域交流センターへお申し込みください。

★「事業のご紹介」では地域交流センターが取り組んでいる様々な地域貢献事業を紹介しています。県民の皆さんとの連携、協働、交流をとおして、健康な地域づくりに貢献していきます。



地域貢献

看護フェスタ

平成26年5月17日(土)にフレンテみえで開催された「みえ看護フェスタ2014」に参加しました。この催しは、三重県、三重県看護協会及び日本助産師会三重県支部の主催で行われ、本学は進学相談会および「骨密度」、「体脂肪」、「血管年齢」、「血圧」の測定ブースでの参加をしました。進学相談ブースには高校生をはじめ保護者の方々や、なかには進路指導部の先生と来場される方もおり、看護への進路を真剣に考える高校生の姿が多く見られました。

測定ブースでは小さいお子様から高齢者の方まで、健康に関心のある方々がたくさんいらっしゃいました。この様な催しを機に、自らの健康に興味を持って頂けるよう今後もこのような取り組みを行っていく予定です。



フレンテまつり

平成26年6月7日(土)、8日(日)に三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」で開催されたフレンテまつりに、本学も参加しました。“血管年齢&ストレスチェック”“骨密度”“体脂肪”“血圧”の測定や“アルコールパッチテスト”を行い、2日間で延べ800名以上の方が三重県立看護大学のブースにお越しいただきました。健康に対する県民の皆さんの関心は高く、前年度までの結果を持参いただく方もいらっしゃいました。また、測定結果の説明では多くの方から質問が寄せられ、学生の丁寧な対応に喜んでいただくことが出来ました。



入学式の後で

今年度の入学生99名は、入学式の後、先輩が準備した茶話会で、修学・生活等における相談・指導等の窓口となるチューター(担当指導教員)や先輩学生とサークル紹介やゲームを通して交流を行い、続くオリエンテーションでは、学生部長から看護職をめざすうえでの心構えについて説明を受け、新たに気を引き締めたことと思います。

一人暮らしをする学生もいる為、「食育に関する講習会」や「消費生活講習会」、警察などの方に来ていただいて「防犯研修」や「交通安全研修」なども受けて大学生活をスタートしました。4年後に看護の様々な分野で活躍する姿が楽しみです。



ご案内

みかんだいオリジナルグッズ

「みかんちゃん」のぬいぐるみが仲間入り!!

大学オリジナルキャラクター「みかんちゃん」のグッズに、新しい仲間がうまれました。立体になったみかんちゃんはとってもキュート。大学生協にて絶賛販売中です!

そのほか、みかんちゃん飴がリニューアルされ「みきゃんでいー」として販売が開始されました。

その他、オリジナル不織布バッグ・クリアファイル・フリクションマーカーペンなど多数のオリジナルグッズも好評発売中です。

大学生協に商品がディスプレイされているので、ぜひ手に取ってくださいね。



附属図書館からのお知らせ

附属図書館では、平成26年4月から、書籍の管理をICチップによる方法に切り替えて運営を行っております。それに伴い、図書館入口に新しく設置した持ち出し禁止装置においては、このICチップのみを感知するため、従来の磁気探知の時のような誤作動がなくなりました。また装置が作動した際も、カウンター内で該当の書籍を特定できるため、その後の迅速な対応が可能となります。全般的にはICシステムによる省力化が見込め、今後は特に蔵書点検期間の短縮による開館日数の増加にもつなげられればと考えております。

さらには、防犯強化の観点から館内の死角を補足するセキュリティカメラの設置も行いました。カウンター内で状況を把握できるため、より安心して図書館をご利用いただけるようになりました。

今後とも皆様の安心・安全を第一に、図書館サービスの充実を図ってまいります。



～生協からのお知らせ～

第11回生協総会を5月2日(金)に開催しました。2013年度も健全な経営結果で終わることができ、今年度のお約束として以下の2点を決定しました。(いずれも2014年後期より実施)

- ①食堂を含めて全店舗にPOSレジを設置し、現金を必要としないプリペイド支払を可能にします。
- ②ICによるプリペイド機能のついた組合員証に刷新し、プリペイド利用されると¥100につき1ポイント付くようにします。200ポイントで¥200分のチャージに振り替えします。

もちろん現金での利用もできますし、今まで通り書籍等の10%割引は変わりません。

これからも親しみやすく利用しやすい、学生・教職員の皆様に喜ばれる生協として頑張ります。

卒業生訪問

三重県立看護大学の卒業生をご紹介します。どのように就職先を選

岩澤 馨

総合心療センターひなが



平成24年度卒業
現在看護師 2年目
精神科救急病棟

私が現在勤めている病院に就職を希望した理由は、学生の頃から精神科看護に興味があったことでもあります。病院の充実した教育・研修体制に魅力を感じたからです。就職先を考えていた時はまず一般科に就職し技術を学んでから精神科に就職した方が良いのではないかと考えていました。しかし病院の説明会に参加し、ここなら看護師として基本的なことを学び、自信を持って精神科看護師として働くことができると感じ、この病院に就職したいと思いました。

私は現在看護師 2年目として救急病棟で働いています。私はもともと人とコミュニケーションをとることが苦手で、就職して間もない頃は患者さんとのコミュニケーションがうまくとれずに関係性を作ることに苦労しました。しかし今では担当患者さんを受け持ち、担当看護師として先輩方の助言を頂きながら看護の方向性をチームメンバーに伝え、信頼される看護の提供に努力しています。

精神疾患を患っている患者さんは、自分の思いを相手に伝えることが苦手な方が多く、周囲と良好な関係を保つことができない方も多くいます。しかし病院理念の「患者様にとっての自然な生き方と権利を尊重した誠実な医療」を意識し、看護師として患者さんの気持ちや伝えたいことを、理解できる看護師になれるように今後も研鑽を積みみたいと思います。

看護部からの一言

総合心療センターひながは、三重県北部地域に於ける精神科救急医療の基幹病院として、精神科救急・急性期治療、リハビリテーション、地域生活を支援する訪問看護、デイケアやケアホームなど、医療と福祉を統合した精神科医療を行っています。

私達の職場には毎年10名程の新人看護師が就職します。その人達が職場に慣れ、看護業務に自信が持てるよう教育研修を充実させています。“原石が光り輝くダイヤモンドに成長する”をイメージしたジェネラリストラダーに沿い、職員全員で新人を育てる職場風土になりました。新人看護師さんが安心して就職できる職場だと自負しております。

精神科看護の魅力は、患者さまとの絆を深めながら自分自身も成長していけることです。

「人と関わることが好き」「患者さまに寄り添える看護を提供したい」と思うあなた!!ぜひ私達と一緒にメンタルケアのプロを目指しましょう。きっと“やりがい”を感じることができる職場です。

嶋垣 耕世

市立伊勢総合病院



平成16年度卒業
現在看護師 9年目
感染管理

「地元の企業で働く人が健康で働き続けるために何が出来るか」そんな思いから15年間働いた会社を辞め三重県立看護大学へ入学しました。地域行政などとの繋がりなども考えていましたので、入学の時点で既に市立伊勢総合病院で働くことを決めていました。

就職して配属されたのは整形外科病棟でした。学生時代にほとんど学習することのなかった領域であったため、分からないことばかりでしたが、日々の業務の中での先輩ナースの指導に加え、定期的開催される病棟学習会では理学療法士やMSWといったコメディカルが講師を担当することもあり、専門領域について幅広く学ぶことができました。また、業務中に「どうしたらいい」という投げかけを耳にすることも多く、個別に動くのではなく、患者さんにとって何がベストなのかをスタッフ全員が常に考え、共有して取り組んでいます。

2年前に三重県立看護大学の認定看護師教育課程「感染管理」(1期生)の研修を終え、現在は感染管理認定看護師として専従で院内感染を担当しています。今は、院内での活動で手いっぱいですが、「感染予防・感染防止」をキーワードに少しずつ地域への関わりも持っていきたいと思っています。

看護部からの一言

市立伊勢総合病院は、「愛情と責任を持ち、安全で安心していただける地域医療」の確立を目指しています。平成30年5月には、急性期医療を含め、回復期リハビリ病棟・療養型病棟・緩和ケア病棟と切れ目のない新病院として開設されます。

看護部は期待と信頼に応えられる看護の提供を理念に掲げ「患者に寄り添う看護」「専門職としての継続学習」を目標とし、相手に目を向ける、患者さんを中心に考える、患者さんの話をよく聴く事ができるよう日々自己研鑽しております。

また、平成26年度より、研修制度においても看護師の能力開発の指標となるキャリアラダーを取り入れ教育支援を行っています。その上で質の高い看護を目指していきたいと考えています。

当院では、感染管理認定看護師として嶋垣さんはICTチームの中心的存在であり、専従で日々活動し、院内感染防止を強化するために各部署のラウンドを行い指導しています。

温厚な性格であるが真の強さを持っており期待のできる看護師です。

山野 恵律子

鈴鹿中央総合病院



平成16年度卒業
現在看護師10年目
循環器内科

こんにちは！現在第2子妊娠中の10年目ナースです！私がこの病院を選んだ理由は、卒後研修が充実していることはもちろんですが、大学時代所属していた「よさこい」を通じて、病院祭りに呼んで頂いた時、スタッフも病院の雰囲気も、「なんて明るく、笑顔が多い病院なんだろう」と感じたからです。実際、現在も、病院内のスタッフで「よさこいチーム」を結成し、地域のお祭りに参加していますが、病院を挙げて応援して下さるとても理解のある病院だと思います！

私は循環器内科に配属され、実際働いてみると、毎日忙しく時間が過ぎていきます。その忙しさの中でも、「患者様にとってどうすることが一番良いのか…」ということを決して忘れない、とても尊敬できる師長さんや、モチベーションの高い先輩や同僚に恵まれ、刺激され、毎日患者様と向き合うことを楽しみながら仕事をする事ができています。

職場は、私も含めて子育てをしながら働いている人が多く、ワークライフバランスも大事にしてくださっているので、家庭を持ちながらも働きやすい環境が整っていると思います。私も育児時短中に、皆さんに助けをもらいながら興味があった呼吸療法士を取得することができました。

今後は、子育てが一段落したら、循環器・呼吸器だけでなく様々な分野で活躍できるナースを目指し頑張りたいと思います。

看護部からの一言

鈴鹿中央総合病院は、F1グランプリと8時間耐久二輪レース(8耐)が開催される20万都市、鈴鹿市の市民病院の役割を果たす地域基幹病院です。看護部は、看護職員約450名で構成され、組織は看護職員たちの自由な考えとアイデアを吸収する機能が構築されており大変風通しの良い環境です。看護部の教育体制は、職員個々の教育ニーズに合った研修を自ら選択することができる教育システムを活用し、看護部全体で個々のキャリア開発を見守り、支援しています。さらに今年度より「ナースングスキル日本版」という臨床現場の看護技術をインターネットで学習するツールを導入して活用しています。

看護体制は、PNS(パートナーシップナースングシステム)を導入し、2人の看護師が良きパートナーとして、対等な立場で互いの特性を生かし、毎日2人で一緒に看護を行い、安全・安心を追求した看護サービスの提供を行っています。

また、新人の教育体制は、入職後8ヶ月間は、正式配属をせずローテーション研修を行っています。研修部署として、内科系・外科系の病棟と、救急外来や手術室・透析室などの看護部門の他、薬剤・検査・事務部門などの研修を設定し、チーム医療を展開していくための基礎としての研修プログラムを準備しています。

山野さんは、2人のお子さんのママになっても、「よさこい」を踊りつづけ、仕事と家庭を両立できるパワフルなナースになると思っています。そんな素敵なナースを応援するために、当看護部はワークライフバランスの充実をしっかりと行い、育児をしながら働き続けられる職場の環境を整えていきたいと考えております。

大西 由夏

伊勢保健所



平成22年度卒業
現在保健師4年目
保健衛生室

伊勢保健所は、伊勢志摩地域の7つの市町を管轄しています。健康づくり、感染症対策、難病対策、精神保健、母子保健、食品衛生など幅広い分野に関して、医師・保健師・薬剤師・獣医師・管理栄養士・放射線技師などの多職種が協力して業務にあたっています。私が保健所への就職を希望した理由は、住み慣れた三重県に就職したいという思いと、専門性を活かした関わりをしたいと思ったからです。

現在は、感染症対策おもに結核対策の担当をしています。家庭訪問をして服薬状況・副作用出現の有無等を確認したり、結核患者と接触があった方に対して健診を実施したりしています。まだまだ保健師としては力不足ですが、まわりの方の指導を受け、日々成長させていただいています。また、保健師全体で新任期の保健師を育てていこうという雰囲気があるため、困ったときは相談しやすく、安心感があります。

保健師ってどんな仕事をしているの?と聞かれることが多いです。実際、幅広い分野で関わっているためうまく仕事内容を説明することはできないですが、住民と直接関わることができる、住民の声を直接聞くことができるのが保健師の仕事の魅力であると思います。住民の身近な存在であり、困ったときに頼れる存在になれるよう頑張っていきたいです。

統括保健師からの一言

地域住民への一次サービスの多くが市町で担う現在、県保健師に求められる役割はより高度で専門的かつ広域的なものとなっています。

伊勢保健所の平成26年度保健師体制は総務企画課、健康増進課、地域保健課の3課に配属され、計7名が業務分担制により活動しています。

この7名のうち、新任期保健師は大西さん一人です。この大切な新任期保健師が専門能力・行政能力を兼ね備えた職員に成長するよう、アドバイザー制度、職場OJT等重層的な支援体制をとり、困った時一人で悩まなくてもよい環境を整えています。

また保健師に求められる専門的能力として「みる(地域をみる)」「つなぐ(地域をつなぐ)」「動かす(地域を活かす)」があります。

大西さんのまじめでこつこつと仕事に立ち向かう姿から地域全体を見渡す「鳥の目」と地域に根ざす「虫の目」の両眼に心がけ、まずは住民の声を聴き頼れる存在になれることを期待しています。



教職員紹介

実践基盤看護学 教授 中西 貴美子

これまで、大学の教員、病院の看護管理職を経験してきました。臨床の現場をよりよくするために重要である看護管理マネジメントについて活動していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

小児看護学 教授 宮崎 つた子

本年4月に着任しました。現在、妊娠からの子育て支援や子供のQOLに関する取り組みを行っています。今後地域貢献活動にも務めていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。

哲学、倫理学、宗教学、日本語教育 准教授 早川 正祐

専門は哲学です。日々の生活で感じる疑問や違和感を大切に、それらが何に由来するのか立ち止まって考える。そんな非効率なことを、こよなく愛しています。

実践基盤看護学 助手 中村 真弓

本学の大学院を卒業し、今年度から着任しました中村です。教員としては新人ですが、看護の原点から看護の素晴らしさを伝えていただけるような教員を目指し、頑張ります。

母性看護学 助手 松本 亜希

平成26年4月より就任いたしました。病院勤務や青年海外協力隊員を経て現在に至ります。現在1児の母として育児にも奮闘しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

実践基盤看護学 助手 菅原 啓太

大学病院で看護師として5年働いたあと、大学院で看護教育学を学び、今年度から教員として働かせていただくこととなりました。まだまだ教員として未熟ですが、よろしくお願ひします。

新任教員



地域在宅看護学 助手 松川 真葵

本年度より地域在宅看護の助手として着任しました。今年3月まで大阪で養護教諭をしていました。持ち前の明るさで頑張りたいと思ひます。よろしくお願ひします。

実践基盤看護学 助手 栗谷 亜紀

済生会松阪総合病院より人事交流で参りました。この1年間で、たくさんの方を吸収して病院に持って帰りたいと思ひています。期間限定ですが、よろしくお願ひします。

事務局



事務局副局長 三井 清輝

4月に赴任してきました。毎朝、清潔で気分がいいキャンパスで深呼吸をして事務室に入ります。学生の皆さんも優秀で、礼儀正しく、また優しいです。この大学の雰囲気大切にしていきたいと思ひています。どうぞ、よろしくお願ひします。

企画広報課 板橋 広紀

皆さん、こんにちは。本年4月から企画広報課で勤務しています。3月までは県庁で広報の仕事に携わっており、初めての大学勤務で戸惑うことばかりです。正直、先日も大学内で道に迷ってしまいました。仕事では、迷うことのないようしっかり取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願ひします。

総務課 中村 靖子

4月に県教育委員会事務局から赴任しました。総務課で教職員の給与・旅費などを担当しています。どうぞよろしくお願ひいたします。

教務学生課 川島 弥

4月から教務学生課で仕事をしています。また、後援会の事務局も担当していますので、保護者の方とも一緒に学生の大学生活を支援できればと思ひます。よろしくお願ひします。

教務学生課 稲田 佳恵

4月に教務学生課へ赴任してきました。学生の皆さんには充実した大学生活を送っていただきたいと思ひています。サポートしていけるよう頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

教務学生課 河口 正一

教務学生課の河口です。週3日の勤務ではありますが、学生の皆さんが充実した大学生活を送れるよう努力してまいります。

【退職の教員】

佐々木 由香 准教授 平成25年7月	和田 庸平 助教 平成26年3月	西澤 あゆみ 助手 平成26年3月
木村 暢男 講師 平成26年3月	井上 直子 助教 平成26年3月	安田 真美 特任准教授 平成26年4月
和智 志げみ 講師 平成26年3月	杉野 健士郎 助教 平成26年3月	
松本 尚子 講師 平成26年3月	中島 直子 助手 平成26年3月	

【平成26年3月に退職・転出の職員】

加藤 和浩	吉田 智明	伊藤 ひろみ	松本 めぐみ
小久保 純一	中井 千恵	三好 陽子	

附属図書館



附属図書館 岡嶋 圭子

5月から図書館にお邪魔しております岡嶋です。久しぶりに大学生に戻ったようで、毎日ワクワクしております。一日も早く皆様のお役に立てるよう頑張っております。

附属図書館 田添 久博

5月より附属図書館の統括責任者として勤務しております。充実した専門図書と快適な学習スペースの提供を通じて皆様の学生生活をサポートしていければと思ひます。

お知らせ

第1回公開講座のご案内

腸を健やかに保つことが健康に結びつくということは、何となく耳にして知っているという方も多いかと思いますが、腸は食べたものを消化吸収する器官ですが、実は、私たちが摂取した食物に大きな影響を受けています。その相互作用のメカニズムを食物と腸の関係を長年研究してこられた清水先生にわかりやすくお話しいただきます。

腸と食物の関係、その秘密を知って、あなたも腸を健やかに保ち、健康に、そして内側から美しくなりません。

参加は無料です。参加を希望される方は、三重県立看護大学企画広報課まで、電話、FAX、e-mailのいずれかでお申し込みください。当日の参加受付も可能です。

<問い合わせ・申し込み先>

公立大学法人三重県立看護大学 企画広報課


TEL：059-233-5669（企画広報課直通）

FAX：059-233-5666

E-mail：kikaku@mcn.ac.jp

公立大学法人三重県立看護大学地域交流センター
平成26年度第1回公開講座
美と健康を支える腸
腸を支える食物

講師：清水 誠 先生
東京農業大学応用生物科学部教授
東京大学名誉教授



◆日時：平成26年10月18日（土）
13時30分～15時（受付：13時～）
◆場所：三重県立看護大学

サポーター制度について

サポーター制度は本学の教育、研究、地域貢献、学生募集、広報、運営などを支援していただくことを目的として平成24年2月にスタートし、今年で丸2年が経過しました。現在も引き続き9名のサポーターの方々によって、県内各地域において本学に関する情報の発信や地域からの有用な情報を収集していただいています。サポーターの方々による活動のおかげで多くの方に本学のことを知っていただき、公開講座や出前授業といった地域貢献の活動が広がってまいりました。

全国男性看護師会活動中です

全国男性看護師会は三重男性看護師会を前身とし、2014年4月より【男性看護師のための支援】【看護師を目指す男子学生のための支援】【男性看護師および看護職を目指す男子学生に関する研究活動】【会員相互の交流】を4本柱とし本格的に活動を開始しております。

本会は事務局を本学に置き、本学の卒業生をはじめ全国の男性看護師の協力を得ながら運営しております。現在北は北海道、南は九州の男性看護師ならびに看護師を目指す男子学生あわせて70名ほどの会員を有しております。7月5日には津市で全国男性看護師会発足を開催し、三重県内をはじめ愛知県、静岡県、神奈川県などから51名の方にご参加いただき、盛況に終えることができました。発足会では基調講演や交流会を通し男性看護師の夢と理想そして可能性について考えました。また、発足会の模様はNHKのニュースで放映され、中日新聞、朝日新聞、伊勢新聞にも掲載されました。まだまだ発足したばかりの小さな会ではありますが男性看護師のために邁進して参ります。今後とも皆様のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。発足会の様子や活動報告などは全国男性看護師会のホームページをご覧ください。



行事予定

大学行事予定(9月以降)

9月	6日 大学院入試(一次募集) 13日 教育懇談会 30日 看護管理者意見交換会
10月	14日 後期授業開始
11月	8日 特別入試(地域推薦B) 22日 特別入試(地域推薦A)
12月	13日 大学院入試(二次募集) 13日 三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム
1月	17日 大学入試センター試験 18日 大学入試センター試験
2月	7日 特別入試(地域推薦C) 12日 後期授業終了 25日 一般入試(前期日程)
3月	12日 一般入試(後期日程) 15日 卒業式

地域交流センター行事予定(9月以降)

9月	1日 公開講座「介護と表裏一体の高齢者虐待について」 講師：大越 扶貴 教授 共催：津市内地域包括支援センター-社会福祉士部会 9日 公開講座「薬に関する四方山話」 講師：林 辰弥 教授 共催：アイリスきいながしま 12日 初学者のための看護研究 (全7回：7/1、7/8、7/23、7/31、8/5、8/19、9/12) 20日 第1回認知症ケア看護師養成研修 (7/5、7/19、8/2、8/16、8/30、9/20)
10月	11日、25日 第2回認知症ケア看護師養成研修 (10/11、10/25、11/1、11/15、12/6、12/27) 18日 第1回公開講座「美と健康を支える腸、腸を支える食物」 講師：清水 誠 氏(東京農業大学応用生物科学部教授、東京大学名誉教授)
11月	1日、15日 第2回認知症ケア看護師養成研修 (10/11、10/25、11/1、11/15、12/6、12/27) 25日 公開講座「楽しく・おいしく減塩しましょう！」 講師：前田 貴彦 准教授 共催：伊賀市教育委員会 上野公民館
12月	6日、27日 第2回認知症ケア看護師養成研修 (10/11、10/25、11/1、11/15、12/6、12/27) 7日 第2回公開講座「運動と健康に関すること」 講師：湯浅 景元 氏(中京大学大学院体育学研究科教授)
1月	20日 公開講座「セネガルの人々の暮らし」 講師：橋本 秀実 講師 共催：津市立南立誠小学校

※この行事予定は8月18日現在のものです。
今後追加・変更される行事があります。
※行事の詳細については、大学HPでお確かめください。



本学キャラクター「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大(みかんだい)」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。



学章の由来

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの異とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



【大学基準協会】の定める「大学基準」に「適合」と認定されています。

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。



本学は環境配慮の国際規格を看護系大学で初めて認証取得しました。

看護系大学で初めてISO14001を認証取得。

地球環境と共生し調和するエコキャンパスをつくるため、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、地球環境に優しいキャンパスづくりを積極的に推進しています。

ISO14001とは…ISO(国際標準化機構)環境保全のための国際規格ISO14000シリーズのうち、ISO14001は企業や団体が事業活動を行う際に、環境に対する負荷を軽減する事業活動の一部として組み込み、継続的改善を行うための環境マネジメントシステムについて定めています。



MIE
PREFECTURAL
COLLEGE
OF NURSING

公立大学法人

三重県立看護大学

〒514-0116

三重県津市夢が丘1丁目1番地1

TEL 059-233-5600(代)

FAX 059-233-5666

<http://www.mcn.ac.jp/>

